

クラウドクエリーの遅延とクラウドクエリーの失敗率のトラブルシューティング

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景](#)

[トラブルシューティング](#)

はじめに

このドキュメントでは、セキュアエンドポイントプライベートクラウドデバイスで高いクラウドクエリ遅延および失敗率のトラブルシューティング手順について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- セキュアエンドポイントプライベートクラウドデバイス
- 基本的なネットワークのトラブルシューティング

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- セキュアエンドポイントプライベートクラウド4.2.4_202410290303

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景

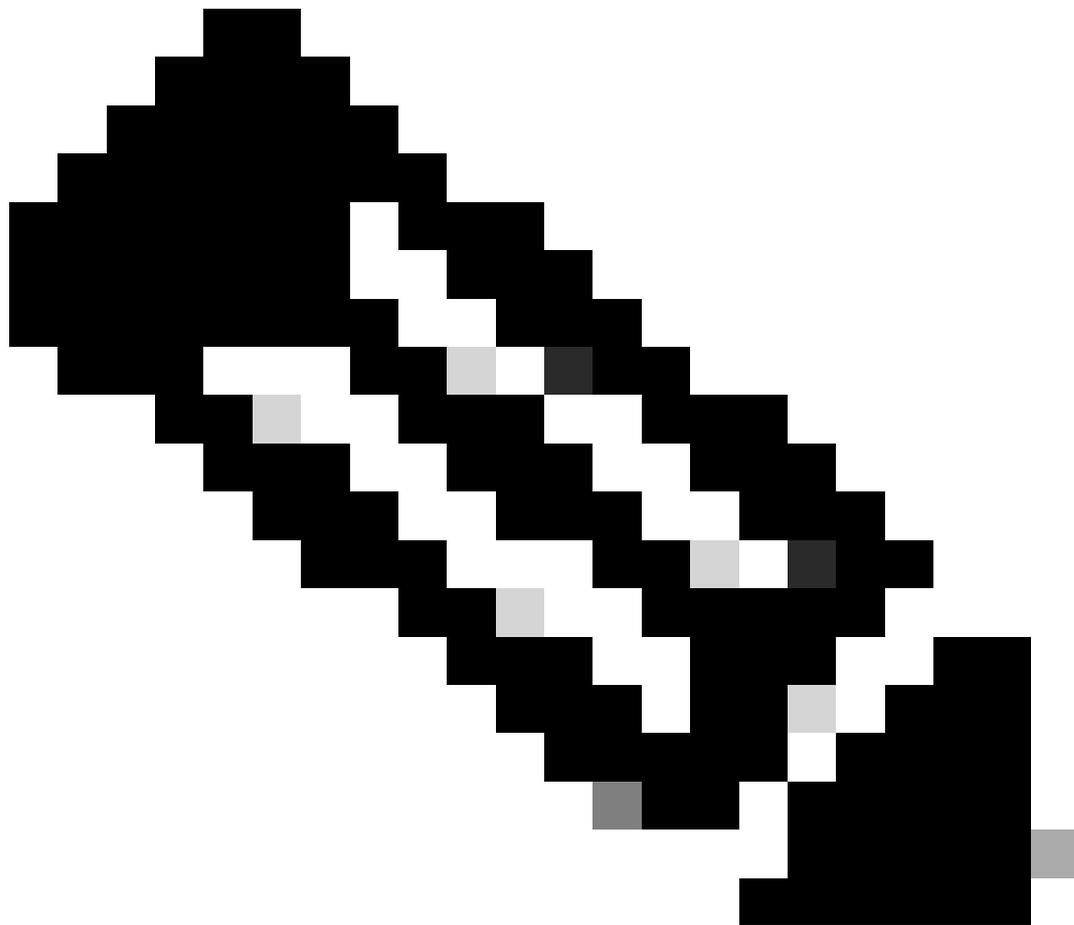
セキュアエンドポイント(SE)プライベートクラウドデバイスは、シスコのクラウドの主要な3つのメトリックを追跡します。

- Cisco Cloud Query Latency : デバイスとシスコクラウド間のアップストリームおよびダウ

ンストリーム通信の遅延（ミリ秒）を測定します。

- Cisco Cloud Query Failure Rate：失敗した廃棄クエリの割合を表示します。
- Cisco Cloud Query Total：デバイスが1秒間に処理しているクエリの数を表します。

これらのメトリックは、SE Private Cloud Administration PortalのKey Metricsの下にあります。



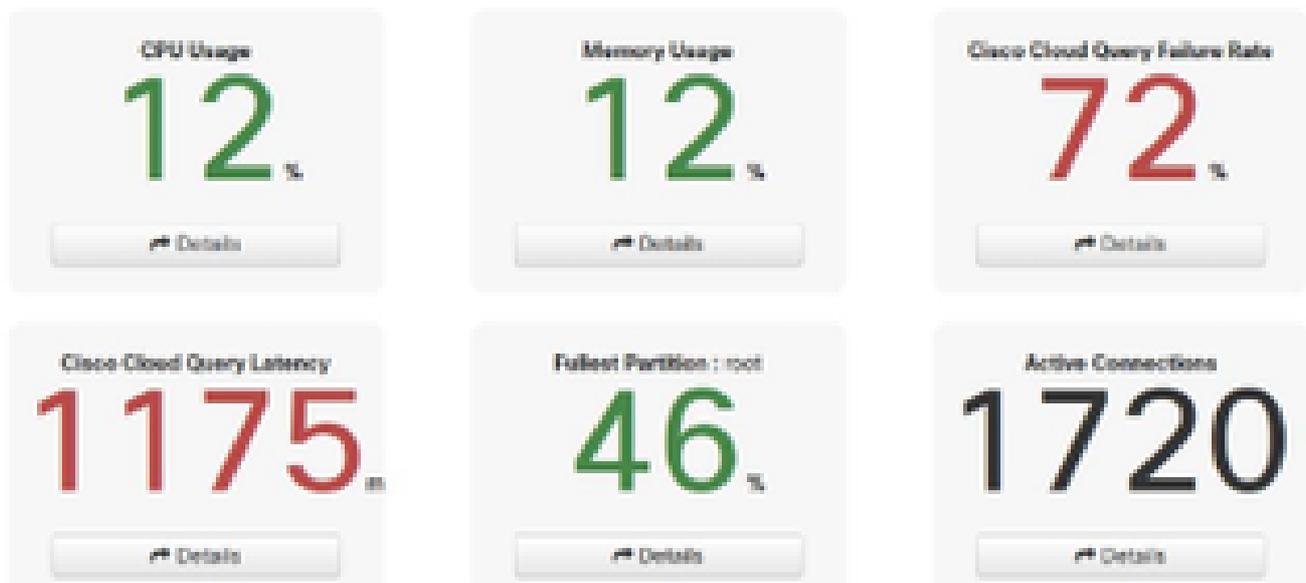
注：これらのメトリックは、クラウドプロキシモードでの導入にのみ適用されます。このモードでは、SEプライベートクラウドデバイスがコネクタとシスコクラウド間のクラウドクエリーのプロキシとして機能します。

トラブルシューティング

Cloud Query Latency Rate (CCR ; クラウドクエリ遅延レート) が高い場合は、ネットワークリンクがキャパシティで動作しているか、またはキャパシティに近いことを示しており、Cloud Query Failure Rate (CCR ; クラウドクエリ失敗率) も高くなる可能性があります。

注意が必要な値の例を次に示します。

Key Metrics



注意が必要な値

「詳細」をクリックすると、さまざまな時間範囲のメトリックがグラフィカルに表示され、詳細な分析が可能になります。

基本的なトラブルシューティングの手順:

1. SEプライベートクラウドデバイスが安定したネットワーク接続を持つことを確認します。シスコクラウドサービスへのトラフィックをブロックしているファイアウォールルールがないこと、および必要なすべてのIPアドレスで接続が許可されていることを確認します。接続を確認するには、次のコマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
amp-ctl check -v connectivity
```

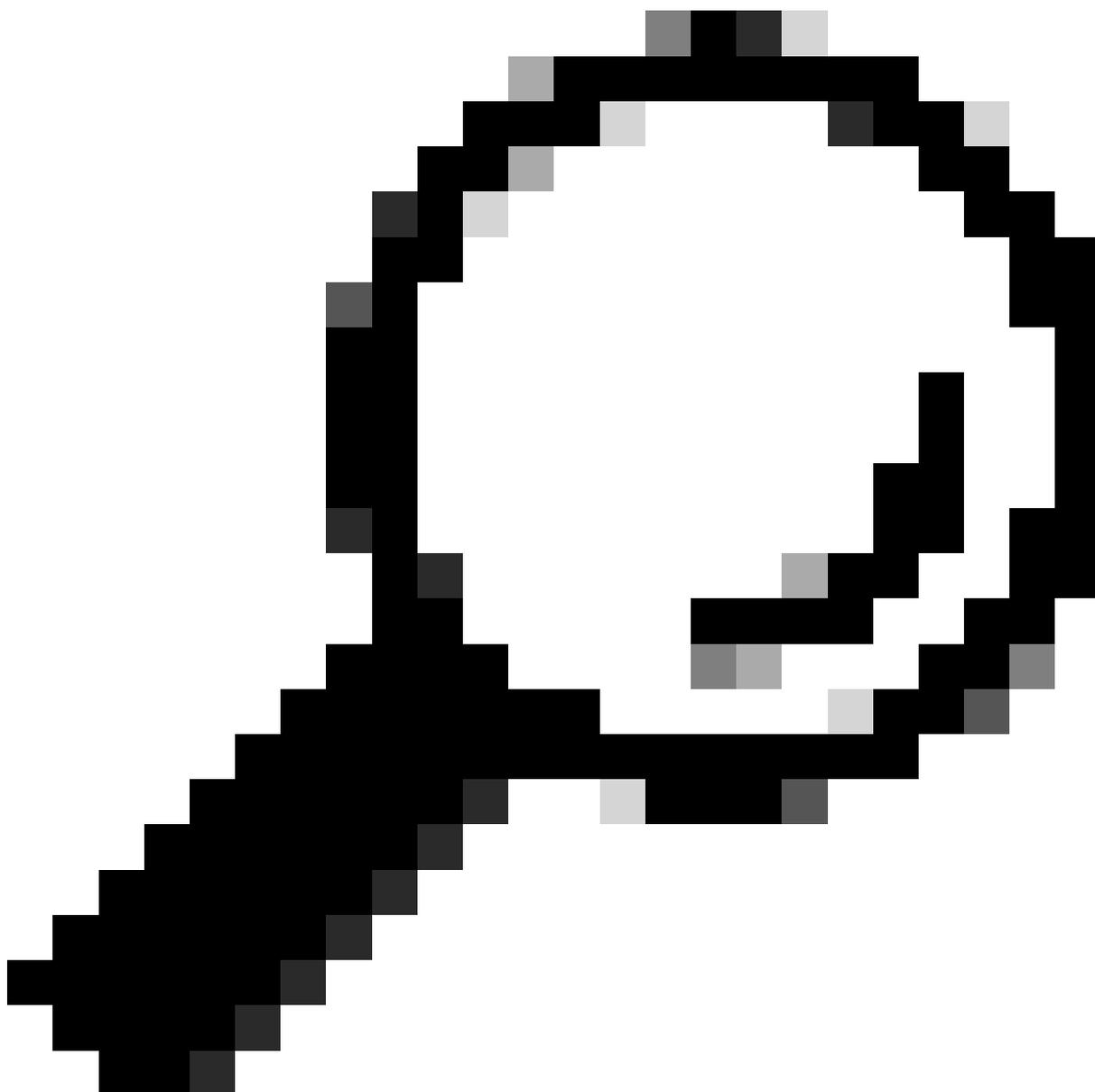
2. SE Private CloudデバイスのCPU、メモリ、およびディスクの使用状況を監視します。リソースの使用率が高いと、クエリの処理速度に影響を与える可能性があります。

3. 使用可能なインターネット帯域幅を測定し、ネットワークの輻輳が遅延に寄与しているかどうかを評価します。また、パフォーマンスに影響を与える可能性があるQoSデバイスが制限を課しているか、または他のトラフィックに優先順位を付けていないかを確認します。

4. Cisco Cloud Query TotalメトリックをチェックしてCloud Query Volumeを分析し、クエリの急増がシステムを圧迫しているかどうかを判断します。

5. 最も近いシスコクラウドが遅延の最適化に使用されていることを確認します。この設定は、SE Private Cloud Administration PortalのConfiguration → Cisco Cloud → Cisco Cloud Configurationの下にあります。

6. Test Upstream Connectionオプションの実行中に、SE Private Cloudデバイスでパケットキャプチャを実行します。このオプションは、SE Private Cloud Administration PortalのConfiguration → Cisco Cloud → Test Upstream Connectionの下にあります。テストが正常に完了するかどうかを確認します。2分ごとにテストを数回繰り返します。パケットキャプチャが十分なデータを収集するために10分間実行されるようにします。キャプチャを分析してネットワーク遅延を評価し、潜在的な問題を特定します。



ヒント：クラウドクエリの失敗率が100%の場合は、緑色のボタンをクリックして再登録し、問題が修正されたかどうかを確認することもできます。

これらのトラブルシューティング手順を実行した後も問題が解決しない場合は、ログとメトリックを収集し、Cisco TACに連絡して、さらにサポートを受けてください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。